



構成パラメータ

- [デバイス パッケージ仕様内のコンフィギュレーションパラメータ \(1 ページ\)](#)
- [抽象機能プロファイル内のコンフィギュレーションパラメータ \(5 ページ\)](#)
- [サービス グラフでの抽象機能ノード内のコンフィギュレーションパラメータ \(9 ページ\)](#)
- [各種の設定 MO 内のコンフィギュレーションパラメータ \(13 ページ\)](#)
- [パラメータ解決 \(17 ページ\)](#)
- [パラメータ解決時の MO の検索 \(18 ページ\)](#)
- [ロールベースのアクセス コントロール ルールの拡張について \(19 ページ\)](#)

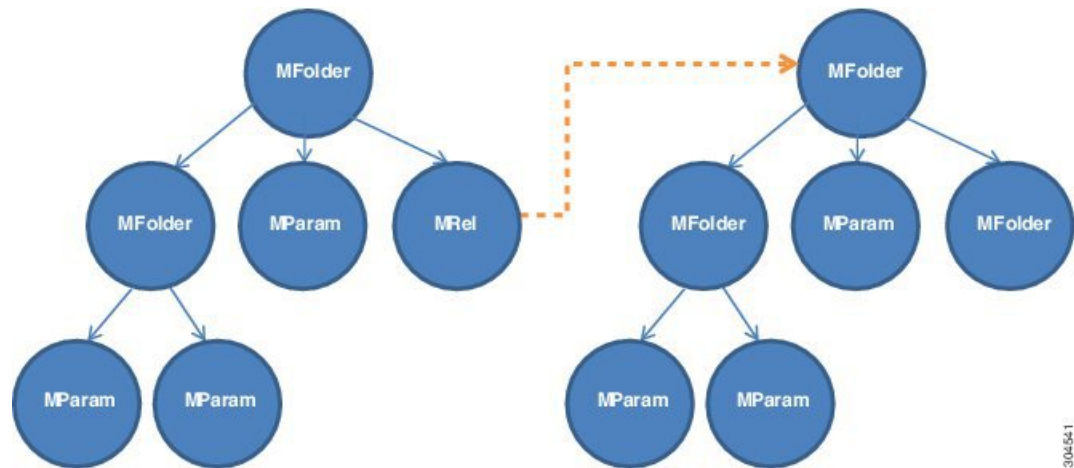
デバイスパッケージ仕様内のコンフィギュレーションパラメータ

デバイスパッケージにはサービスデバイスの仕様を示す XML ファイルが含まれます。この仕様にはデバイス情報およびサービス デバイスによって提供される各種の機能が含まれます。

デバイス仕様の一部として、このファイルにはサービスデバイスによって必要なコンフィギュレーションの宣言が含まれる必要があります。この設定は、グラフのインストール中にサービス デバイスによって提供される各種の機能を設定するために必要です。

次の図は、デバイスパッケージ内のコンフィギュレーションパラメータ階層を示しています。

図 1: デバイス パッケージ内のコンフィギュレーションパラメータ階層



MFold

MFold は、MParam および他のネストされた MFold を含むことができるコンフィギュレーション アイテムのグループです。MFold は次の属性を持ちます。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。濃度のデフォルト値は1です。濃度がNであれば、Application Policy Infrastructure Controller (APIC) ではコンフィギュレーションパラメータのNインスタンスの設定が可能です。
ScopedBy	パラメータ解決の範囲を指定します。ScopedByは、APICがコンフィギュレーションMOからパラメータを解決する場合にパラメータ値を検索する場所を決定します。 デフォルト値はEpgです。サポートされる値はTenant、Ap、Bd、およびEpgです。
RsConnector	コンフィギュレーションアイテムをMConnに関連付ける関係。
DevCtx	コンフィギュレーションアイテムをデバイス(LDev)内の特定の物理デバイス(CDev)に関連付けることができます。
Locked	コンフィギュレーションアイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。

MParam

MParamは、単一のコンフィギュレーションパラメータを宣言するコンフィギュレーションパラメータの基本単位です。MParam は次の属性を持ちます。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。濃度のデフォルト値は1です。濃度がNであれば、APICではコンフィギュレーションパラメータのNインスタンスの設定が可能です。
RsConnector	コンフィギュレーションアイテムを MConn に関連付ける関係。
必須	コンフィギュレーションアイテムが必須としてマークされます。
Locked	コンフィギュレーションアイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。
Validation	値の検証方法を指定します。

MRel

MRel は1つの MFolder が別の MFolder を参照することを可能にします。MFolder 内の MRel を使用して、管理者は含む側の MFolder を、MRel 内に含まれる RsTarget 関係によって MRel からポイントされる MFolder に関連付けることができます。MRel は次の属性を持ちます。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。濃度のデフォルト値は1です。
RsTarget	コンフィギュレーションフォルダを別の MFolder に関連付ける関係。この関係に対する TDn の値はターゲットフォルダの DN です。
RsConnector	コンフィギュレーションアイテムを MConn に関連付ける関係。
必須	コンフィギュレーションアイテムが必須としてマークされます。

デバイス パッケージ仕様の設定スコープ

デバイス仕様ファイルで、コンフィギュレーションアイテムは異なるセクションで配置されません。

MDevCfg

MDevCfg のセクションでは、デバイスを使用するすべてのサービス グラフで共有されるデバイス レベルの設定について説明します。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、この項で説明されるコンフィギュレーションアイテムを使用して作成されたコンフィギュレーションオブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトは、デバイスを使用しているすべてのグラフ インスタンスが削除された後にもサービス デバイスから削除されます。

MFuncCfg

MFuncCfg は、サービス機能に対してローカルで、サービス機能に固有なコンフィギュレーションについて説明します。APIC は、このセクションで説明されるコンフィギュレーション アイテムによって作成されたコンフィギュレーションオブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトが作成され、サービス機能がインスタンス化または削除されたときに削除されません。

MGrpCfg

MGrpCfg は、デバイスを使用するサービス グラフのすべての機能によって共有される設定を説明します。APIC は、このセクションで説明されるコンフィギュレーションアイテムを使用して作成されたコンフィギュレーションオブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトは、サービス グラフからすべての機能が削除された後にサービス デバイスから削除されません。

デバイス パッケージ内のコンフィギュレーション パラメータの XML の例

次の XML の例は、デバイスパッケージ内のコンフィギュレーションパラメータを示しています。

```
<vnsMFolder key="VServer" scopedBy="epg">
  <vnsRsConnector tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB/mConn-external"/>
  <vnsMParam key="vsservername" description="Name of VServer" mandatory="true"/>
  <vnsMParam key="vip" description="Virtual IP"/>
  <vnsMParam key="subnet" description="Subnet IP"/>
  <vnsMParam key="port" description="Port for Virtual server"/>
  <vnsMParam key="persistencetype" description="persistencetype"/>
  <vnsMParam key="servicename" description="Service bound to this vServer"/>
  <vnsMParam key="servicetype" description="Service bound to this vServer"/>
  <vnsMParam key="clttimeout" description="Client timeout"/>
  <vnsMFolder key="VServerGlobalConfig"
    description="This references the global configuration">
    <vnsMRel key="ServiceConfig">
      <vnsRsTarget tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mDevCfg/mFolder-Service"/>
    </vnsMRel>
  <vnsMRel key="ServerConfig">
```

```

        <vnsRsTarget tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mDevCfg/mFolder-Server"/>
    </vnsMRel>
    <vnsMRel key="VipConfig">
        <vnsRsTarget
            tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mDevCfg/mFolder-Network/mFolder-vip"/>
        <vnsRsConnector tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB/mConn-external"/>

    </vnsMRel>
</vnsMFolder>
</vnsMFolder>

```

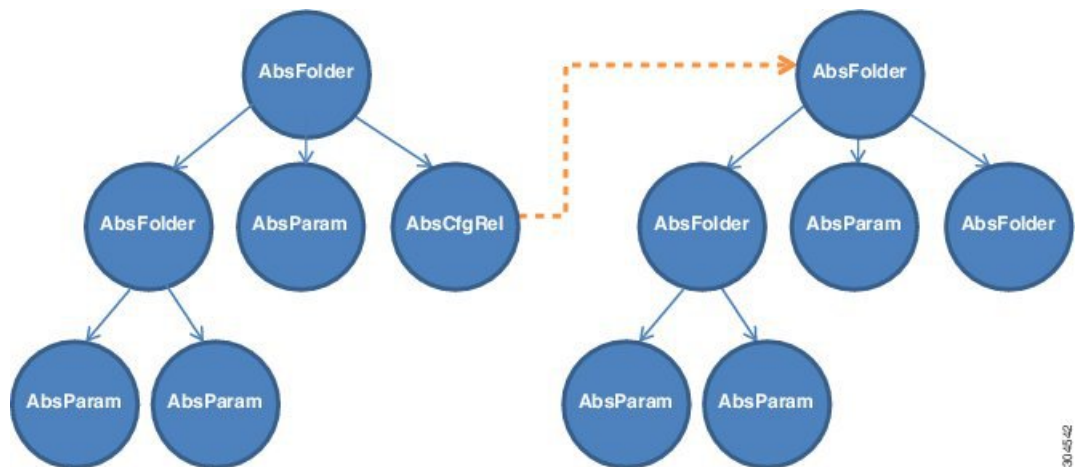
抽象機能プロファイル内のコンフィギュレーションパラメータ

抽象プロファイルを使用すると、管理者はコンフィギュレーションパラメータのデフォルト値を設定できます。抽象機能プロファイルには値を持つコンフィギュレーションパラメータが含まれます。これらの値がグラフインスタンス作成時にデフォルト値として使用されます。

抽象機能プロファイルはサービスグラフの機能ノードに接続されます。抽象機能プロファイルで指定されたデフォルト値は、グラフのインスタンス化の際にサービスデバイスに機能をレンダリングする場合に使用されます。

次の図は、抽象機能プロファイル内のコンフィギュレーションパラメータ階層を示しています。

図 2: 抽象機能プロファイル内部のコンフィギュレーションパラメータ階層



AbsFolder

AbsFolder は、AbsParam および他のネストされた AbsFolder を含むことができるコンフィギュレーションアイテムのグループです。デバイスパッケージ内に各 AbsFolder の MFolder が必要

です。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、各 AbsFolder を検証して、パッケージ内に AbsFolder に対応する MFolder が存在することを確認します。AbsFolder には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
ScopedBy	パラメータ解決の範囲を指定します。ScopedBy は、APIC がコンフィギュレーション MO からパラメータを解決する場合にパラメータ値を検索する場所を決定します。 デフォルト値は Epg です。サポートされる値は Tenant、Ap、Bd、および Epg です。
DevCtx	コンフィギュレーションアイテムをデバイス クラスタ (LDev) 内の特定の物理デバイス (CDev) に関連付けることができます。
Locked	コンフィギュレーションアイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。

AbsParam

AbsParam はコンフィギュレーションパラメータの基本単位です。AbsParam は単一のコンフィギュレーションパラメータを定義します。AbsFolder と同様、各 AbsParam に対してデバイス仕様内に対応する MFolder が存在する必要があります。APIC は仕様を検証して、パッケージ内に AbsParam に対応する MFolder が存在することを確認します。AbsParam の値は、MParam 内で指定される検証メソッドを使用して検証されます。AbsParam には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	特定のコンフィギュレーションアイテムの値を保持します。値は MParam ではサポートされません。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
必須	コンフィギュレーションアイテムが必須としてマークされます。

属性	説明
Locked	コンフィギュレーション アイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。
Validation	コンフィギュレーション パラメータの検証に使用する検証メカニズムを指定します。

AbsRel

AbsRel は 1 つの AbsFolder が別の AbsFolder を参照することを可能にします。AbsRel には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーション アイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	特定のコンフィギュレーション アイテムの値を保持します。値は MParam ではサポートされません。
説明	コンフィギュレーション アイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーション アイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
必須	コンフィギュレーション アイテムが必須としてマークされます。

抽象機能プロファイルの設定スコープ

抽象機能プロファイルでは、コンフィギュレーション パラメータはデバイス パッケージ内の場合と似た方法で構成されます。3 種類のスコープがあります。

AbsDevCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内のデバイス レベル設定と宣言される、コンフィギュレーション アイテムのデフォルト値を提供します。コンフィギュレーション アイテムは MDevCfg で指定されます。

各コンフィギュレーション アイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーション アイテムが存在する必要があります。

このセクションで説明される設定は、デバイスを使用するサービス グラフで共有されます。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、このセクションで説明されるコンフィギュレーション アイテムを使用して作成されたコンフィギュレーション オブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトは、デバイスを使用しているすべてのグラフィンスタンスが削除された後のみサービス デバイスから削除されます。

AbsGrpCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内のデバイスレベル設定と宣言される、コンフィギュレーションアイテムのデフォルト値を提供します。コンフィギュレーションアイテムはMGrpCfgで指定されます。

各コンフィギュレーションアイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーションアイテムが存在する必要があります。

このセクションで説明される設定は、デバイスを使用するサービスグラフのすべての機能で共有されます。APICは、このセクションで説明されるコンフィギュレーションアイテムを使用して作成されたコンフィギュレーションオブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトは、デバイスを使用しているすべてのグラフインスタンスが削除された後のみサービスデバイスから削除されます。

AbsFuncCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内の機能レベル設定と宣言される、コンフィギュレーションアイテムのデフォルト値を提供します。コンフィギュレーションアイテムはMFuncCfgで指定されます。

各コンフィギュレーションアイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーションアイテムが存在する必要があります。

このセクションは、サービス機能にローカルな設定を説明するために使用されます。このセクションで説明されている設定は、サービス機能に固有のものです。APICは、このセクションで説明されるコンフィギュレーションアイテムによって作成されたコンフィギュレーションオブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトが作成され、サービス機能がインスタンス化または削除されたときに削除されます。

コンフィギュレーションパラメータを持つ抽象機能プロファイルに対する XML POST の例

次の XML POST の例は、コンフィギュレーションパラメータを持つ抽象機能プロファイルを示しています。

```
<vnsAbsFuncProfContr name = "NP">
  <vnsAbsFuncProfGrp name = "Grp1">
    <vnsAbsFuncProf name = "P1">
      <vnsRsProfToMFunc tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB"/>
      <vnsAbsDevCfg name="D1">
        <vnsAbsFolder key="Service" name="Service-Default" cardinality="n">
          <vnsAbsParam name="servicetype" key="servicetype" value="TCP"/>
          <vnsAbsParam name="serviceport" key="serviceport" value="80"/>
          <vnsAbsParam name="maxclient" key="maxclient" value="1000"/>
          <vnsAbsParam name="maxreq" key="maxreq" value="100"/>
          <vnsAbsParam name="cip" key="cip" value="enable"/>
          <vnsAbsParam name="usip" key="usip" value="enable"/>
          <vnsAbsParam name="sp" key="sp" value=""/>
          <vnsAbsParam name="svrtimeout" key="svrtimeout" value="60"/>
          <vnsAbsParam name="clttimeout" key="clttimeout" value="60"/>
          <vnsAbsParam name="cka" key="cka" value="NO"/>
          <vnsAbsParam name="tcpb" key="tcpb" value="NO"/>
        </vnsAbsFolder>
      </vnsAbsDevCfg>
    </vnsAbsFuncProf>
  </vnsAbsFuncProfGrp>
</vnsAbsFuncProfContr>
```



```

        <vnsAbsParam name="cmp" key="cmp" value="NO"/>
    </vnsAbsFolder>
</vnsAbsDevCfg>
<vnsAbsFuncCfg name="SLB">
    <vnsAbsFolder key="VServer" name="VServer-Default">
        <vnsAbsParam name="port" key="port" value="80"/>
        <vnsAbsParam name="persistencetype" key="persistencetype"
            value="cookie"/>
        <vnsAbsParam name="clttimeout" key="clttimeout" value="100"/>
        <vnsAbsParam name="servicetype" key="servicetype" value="TCP"/>
        <vnsAbsParam name="servicename" key="servicename"/>
    </vnsAbsFolder>
</vnsAbsFuncCfg>
</vnsAbsFuncProf>
</vnsAbsFuncProfGrp>
</vnsAbsFuncProfContr>

```

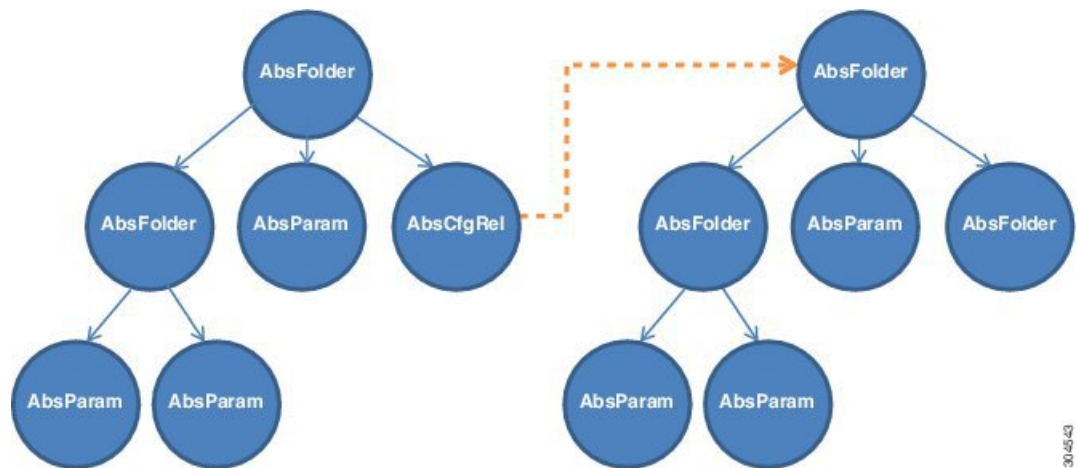
サービス グラフでの抽象機能ノード内のコンフィギュレーションパラメータ

サービス グラフ内の機能ノードを使用して、管理者はコンフィギュレーションパラメータの値を設定できます。これらの値は、グラフのインストール時に使用されます。

抽象機能ノードでは、コンフィギュレーションパラメータは抽象機能プロファイル内の場合と似た方法で構成されます。

次の図は、抽象機能ノード内のコンフィギュレーションパラメータ階層を示しています。

図 3: 抽象機能ノード内のコンフィギュレーションパラメータ



30/5/23

AbsDevCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内のデバイスレベル設定と宣言される、コンフィギュレーションアイテムのデフォルト値を提供するために使用されます。コンフィギュレーションアイテムは MDevCfg で指定されます。

これらの各コンフィギュレーションアイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーションアイテムが存在する必要があります。

AbsGrpCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内のデバイスレベル設定と宣言される、コンフィギュレーションアイテムのデフォルト値を提供するために使用されます。コンフィギュレーションアイテムは MGrpCfg で指定されます。

これらの各コンフィギュレーションアイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーションアイテムが存在する必要があります。

このセクションで説明される設定は、デバイスを使用するサービスグラフのすべての機能で共有されます。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、この項で説明されるコンフィギュレーションアイテムを使用して作成されたコンフィギュレーション オブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトは、サービスグラフからすべての機能が削除された後にサービス デバイスから削除されます。

AbsFuncCfg

このセクションは、デバイスパッケージ内の機能レベル設定と宣言される、コンフィギュレーションアイテムのデフォルト値を提供するために使用されます。コンフィギュレーションアイテムは MFuncCfg で指定されます。

これらの各コンフィギュレーションアイテムに対して、デバイスパッケージに同等のコンフィギュレーションアイテムが存在する必要があります。

このセクションは、サービス機能にローカルな設定を説明するために使用されます。このセクションで説明されている設定は、サービス機能に固有のもので、APIC は、このセクションで説明されるコンフィギュレーションアイテムによって作成されたコンフィギュレーション オブジェクトの参照カウントを実行します。オブジェクトが作成され、サービス機能がインスタンス化または削除されたときに削除されます。

AbsFolder

AbsFolder は、AbsParam および他のネストされた AbsFolder を含むことができるコンフィギュレーションアイテムのグループです。デバイスパッケージ内に各 AbsFolder の MFolder が必要です。APIC は、各 AbsFolder を検証して、パッケージ内に AbsFolder に対応する MFolder が存在することを確認します。AbsFolder には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。

属性	説明
説明	コンフィギュレーション アイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーション アイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
ScopedBy	パラメータ解決の範囲を指定します。ScopedByは、APICがコンフィギュレーション MO からパラメータを解決する場合にパラメータ値を検索する場所を決定します。 デフォルト値は Epg です。サポートされる値は Tenant、Ap、Bd、および Epg です。
RsCfgToConn	コンフィギュレーション アイテムを AbsConn に関連付ける関係。
DevCtx	コンフィギュレーション アイテムをデバイス (LDev) 内の特定の物理デバイス (CDev) に関連付けることができます。
Locked	コンフィギュレーション アイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。

AbsParam

AbsParam はコンフィギュレーションパラメータの基本単位です。AbsParam は単一のコンフィギュレーションパラメータを定義します。AbsFolder と同様、各 AbsParam に対してデバイス仕様内に対応する MFolder が存在する必要があります。APIC は仕様を検証して、パッケージ内に AbsParam に対応する MFolder が存在することを確認します。AbsParam の値は、MParam 内で指定される検証メソッドを使用して検証されます。AbsParam には次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーション アイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	特定のコンフィギュレーション アイテムの値を保持します。値は MParam ではサポートされません。
説明	コンフィギュレーション アイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーション アイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
RsCfgToConn	コンフィギュレーション アイテムを MConn に関連付ける関係。
必須	コンフィギュレーション アイテムが必須としてマークされます。
Locked	コンフィギュレーション アイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。
Validation	コンフィギュレーション パラメータの検証に使用する検証メカニズムを指定します。

AbsRel

AbsRel は 1 つの AbsFolder が別の AbsFolder を参照することを可能にします。AbsRel には次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーションアイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	特定のコンフィギュレーションアイテムの値を保持します。値は MParam ではサポートされません。
説明	コンフィギュレーションアイテムを説明します。
Cardinality	コンフィギュレーションアイテムの濃度を指定します。デフォルト値は 1 です。
RsCfgToConn	コンフィギュレーションアイテムを MConn に関連付ける関係。
必須	コンフィギュレーションアイテムが必須としてマークされます。
Locked	コンフィギュレーションアイテム値がロックされます。一度ロックされると値は変更できません。

コンフィギュレーションパラメータを持つ抽象機能ノードに対する XML POST の例

次の XML POST の例は、コンフィギュレーションパラメータを持つ抽象機能ノードを示しています。

```
<vnsAbsNode name = "SLB" funcType="GoTo" >
  <vnsRsDefaultScopeToTerm tDn="uni/tn-tenant1/AbsGraph-G3/AbsTermNode-Output1/outtmnl"/>

  <vnsAbsFuncConn name = "C4" direction = "input">
    <vnsRsMConnAtt tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB/mConn-external" />
  </vnsAbsFuncConn>
  <vnsAbsFuncConn name = "C5" direction = "output">
    <vnsRsMConnAtt tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB/mConn-internal" />
  </vnsAbsFuncConn>

  <vnsAbsDevCfg>
    <vnsAbsFolder key="Network" name="Network" scopedBy="epg">
      <!-- Following scopes this folder to input terminal or Src Epg -->
      <vnsRsScopeToTerm
tDn="uni/tn-tenant1/AbsGraph-G3/AbsTermNode-Output1/outtmnl"/>

      <!-- VIP address -->
      <vnsAbsFolder key="vip" name="vip" scopedBy="epg">
        <vnsAbsParam name="vipaddress" key="vipaddress" value=""/>
      </vnsAbsFolder>

      <!-- SNIP address -->
      <vnsAbsFolder key="snip" name="snip" scopedBy="epg">
        <vnsAbsParam name="snipaddress" key="snipaddress" value=""/>
      </vnsAbsFolder>
    </vnsAbsFolder>
  </vnsAbsDevCfg>
</vnsAbsNode>
```

```

        </vnsAbsFolder>
    </vnsAbsFolder>

    <vnsAbsFolder key="Service" name="Service" scopedBy="epg" cardinality="n">
        <vnsRsScopeToTerm
tDn="uni/tn-tenant1/AbsGraph-G3/AbsTermNode-Output1/outtmn1"/>
        <vnsAbsParam name="servicename" key="servicename" value=""/>
        <vnsAbsParam name="servername" key="servername" value=""/>
        <vnsAbsParam name="serveripaddress" key="serveripaddress" value=""/>
    </vnsAbsFolder>
</vnsAbsDevCfg>

<vnsAbsFuncCfg>
    <vnsAbsFolder key="VServer" name="VServer" scopedBy="epg">
        <vnsRsScopeToTerm
tDn="uni/tn-tenant1/AbsGraph-G3/AbsTermNode-Output1/outtmn1"/>
        <!-- Virtual Server Configuration -->
        <vnsAbsParam name="vip" key="vip" value=""/>
        <vnsAbsParam name="vservername" key="vservername" value=""/>
        <vnsAbsParam name="servicename" key="servicename" value=""/>
        <vnsRsCfgToConn tDn="uni/tn-tenant1/AbsGraph-G3/AbsNode-Node2/AbsFConn-C4"
/>
    </vnsAbsFolder>
</vnsAbsFuncCfg>
<vnsRsNodeToMFunc tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mFunc-SLB"/>
</vnsAbsNode>

```

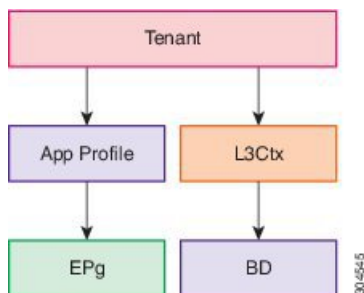
各種の設定 MO 内のコンフィギュレーションパラメータ

管理者は EPG、テナント、BD、または AP などの各種の Application Policy Infrastructure Controller (APIC) MO の一部としてサービス機能に対するコンフィギュレーションパラメータを指定できます。グラフがインスタンス化されると、APIC は各種の場所からパラメータを検索することでグラフに必要な設定を解決します。インスタンス化では、パラメータ値はデバイススク립トに解決され、渡されます。

各種の MO 内でコンフィギュレーションパラメータを保持できることの柔軟性により、管理者は単一のサービス グラフを設定し、グラフを異なるテナントまたはエンドポイントグループ (EPG) に対して異なる設定で使用できます。

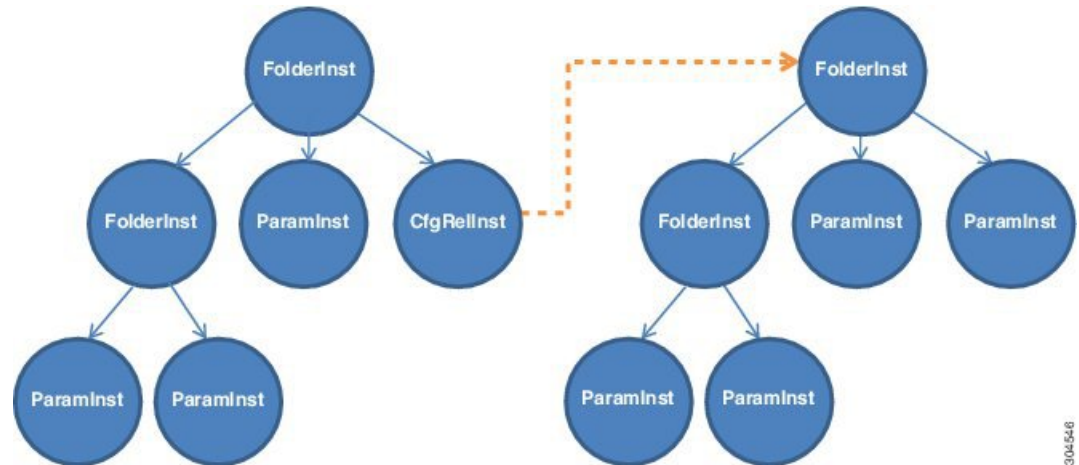
次の図は、APIC MO の階層を示しています。

図 4: APIC MO の階層



次の図は、各種のコンフィギュレーション MO 内のコンフィギュレーション パラメータを示しています。

図 5: 各種の設定 MO 内のコンフィギュレーション パラメータ



FolderInst

FolderInst は、ParamInst および他のネストされた FolderInst を含むことができるコンフィギュレーション アイテムのグループです。FolderInst は次の属性を持ちます。

属性	説明
Key	コンフィギュレーション アイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
ctrctNameOrLbl	パラメータの解決時に一致する FolderInst を検索します。FolderInst をパラメータ解決で使用するには、このプロパティはサービス グラフと関連付けられたコントラクト名と一致する必要があります。一致していない場合、FolderInst はスキップされ、値はこの FolderInst から使用されません。 このフィールドの値を [any] にして、この FolderInst がすべてのコントラクトで使用されるようになります。
graphNameOrLbl	パラメータの解決時に一致する FolderInst を検索します。FolderInst をパラメータ解決で使用するには、このプロパティはサービス グラフ名と一致する必要があります。一致していない場合、FolderInst はスキップされ、値はこの FolderInst から使用されません。 この FolderInst がすべてのサービス グラフで使用されるようにするには、このフィールドの値を [any] にできます。

属性	説明
nodeNameOrLbl	<p>パラメータの解決時に一致する FolderInst を検索します。FolderInst をパラメータ解決で使用するには、このプロパティはノード名と一致する必要があります。一致していない場合、FolderInst はスキップされ、値はこの FolderInst から使用されません。</p> <p>このフィールドの値を [any] にして、この FolderInst がサービス グラフ内のすべてのノードで使用されるようになります。</p>

ParamInst

ParamInst はコンフィギュレーションパラメータの基本単位です。ParamInst は単一のコンフィギュレーションパラメータを定義します。FolderInst と同様、各 ParamInst に対してデバイス仕様内に対応する MParam が存在する必要があります。APIC は仕様を検証して、パッケージ内に ParamInst に対応する MParam が存在することを確認します。ParamInst の値は、対応する MParam 内で指定される検証メソッドを使用して検証されます。ParamInst には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーション アイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	特定のコンフィギュレーション アイテムの値を保持します。値は MParam ではサポートされません。

CfgRelInst

CfgRelInst には、次の属性があります。

属性	説明
Key	コンフィギュレーション アイテムのタイプを定義します。キーは、デバイスパッケージで定義されており、上書きすることはできません。キーは、検証だけでなく一致基準として使用されます。
値	ターゲット FolderInst のパスを保持します。

コンフィギュレーションパラメータを持つアプリケーション EPG の XML POST の例

次の XML の例は、デバイスパッケージ内のコンフィギュレーションパラメータを示しています。

```
<fvAEPg dn="uni/tn-acme/ap-myApp/epg-app" name="app">
  <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="any" nodeNameOrLbl="any"
  key="Monitor">
```

```

        name="monitor1">
          <vnsRsFolderInstToMFolder
tDn="uni/infra/mDev-Acme-ADC-1.0/mDevCfg/mFolder-Monitor"/>
          <vnsParamInst name="weight" key="weight" value="10"/>
        </vnsFolderInst>

        <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="any" nodeNameOrLbl="any"
key="Service"
        name="Service1">
          <vnsParamInst name="servicename" key="servicename" value="crpvgrtst02-8010"/>
          <vnsParamInst name="servicetype" key="servicetype" value="TCP"/>
          <vnsParamInst name="servername" key="servername" value="s192.168.100.100"/>
          <vnsParamInst name="serveripaddress" key="serveripaddress"
value="192.168.100.100"/>
          <vnsParamInst name="serviceport" key="serviceport" value="8080"/>
          <vnsParamInst name="svrtimeout" key="svrtimeout" value="9000" />
          <vnsParamInst name="clttimeout" key="clttimeout" value="9000" />
          <vnsParamInst name="usip" key="usip" value="NO" />
          <vnsParamInst name="useproxyport" key="useproxyport" value="" />
          <vnsParamInst name="cip" key="cip" value="ENABLED" />
          <vnsParamInst name="cka" key="cka" value="NO" />
          <vnsParamInst name="sp" key="sp" value="OFF" />
          <vnsParamInst name="cmp" key="cmp" value="NO" />
          <vnsParamInst name="maxclient" key="maxclient" value="0" />
          <vnsParamInst name="maxreq" key="maxreq" value="0" />
          <vnsParamInst name="tcpb" key="tcpb" value="NO" />
          <vnsCfgRelInst name="MonitorConfig" key="MonitorConfig" targetName="monitor1"/>
        </vnsFolderInst>

        <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G2" nodeNameOrLbl="any"
key="Network"
        name="Network">
          <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G2" nodeNameOrLbl="any"
key="vip"
          name="vip">
            <vnsParamInst name="vipaddress1" key="vipaddress" value="10.10.10.200"/>
          </vnsFolderInst>
          <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G2" nodeNameOrLbl="any"
devCtxLbl="C1" key="snip" name="snip1">
            <vnsParamInst name="snipaddress" key="snipaddress" value="192.168.1.200"/>
          </vnsFolderInst>
          <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G2" nodeNameOrLbl="any"
devCtxLbl="C2" key="snip" name="snip2">
          </vnsFolderInst>
          <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G1" nodeNameOrLbl="any"
key="Network"
          name="Network">
            <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G1" nodeNameOrLbl="any"
key="vip"
            name="vip">
              <vnsParamInst name="vipaddress1" key="vipaddress" value="10.10.10.100"/>
            </vnsFolderInst>
            <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G1" nodeNameOrLbl="any"
devCtxLbl="C1" key="snip" name="snip1">
              <vnsParamInst name="snipaddress" key="snipaddress" value="192.168.1.100"/>
            </vnsFolderInst>
            <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G1" nodeNameOrLbl="any"
devCtxLbl="C2" key="snip" name="snip2">
              <vnsParamInst name="snipaddress" key="snipaddress" value="192.168.1.101"/>
            </vnsFolderInst>
            <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="G1" nodeNameOrLbl="any"
devCtxLbl="C3" key="snip" name="snip3">
              <vnsParamInst name="snipaddress" key="snipaddress" value="192.168.1.102"/>
            </vnsFolderInst>
          </vnsFolderInst>
        </vnsFolderInst>

```



```
<!-- SLB Configuration -->
<vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="any" nodeNameOrLbl="any"
key="VServer"
name="VServer">
  <!-- Virtual Server Configuration -->
  <vnsParamInst name="port" key="port" value="8010"/>
  <vnsParamInst name="vip" key="vip" value="10.10.10.100"/>
  <vnsParamInst name="vservername" key="vservername" value="crpvgrtst02-vip-8010"/>

  <vnsParamInst name="servicename" key="servicename" value="crpvgrtst02-8010"/>
  <vnsFolderInst ctrctNameOrLbl="any" graphNameOrLbl="any" nodeNameOrLbl="any"
key="VServerGlobalConfig" name="VServerGlobalConfig">
  <vnsCfgRelInst name="ServiceConfig" key="ServiceConfig" targetName="Service1"/>

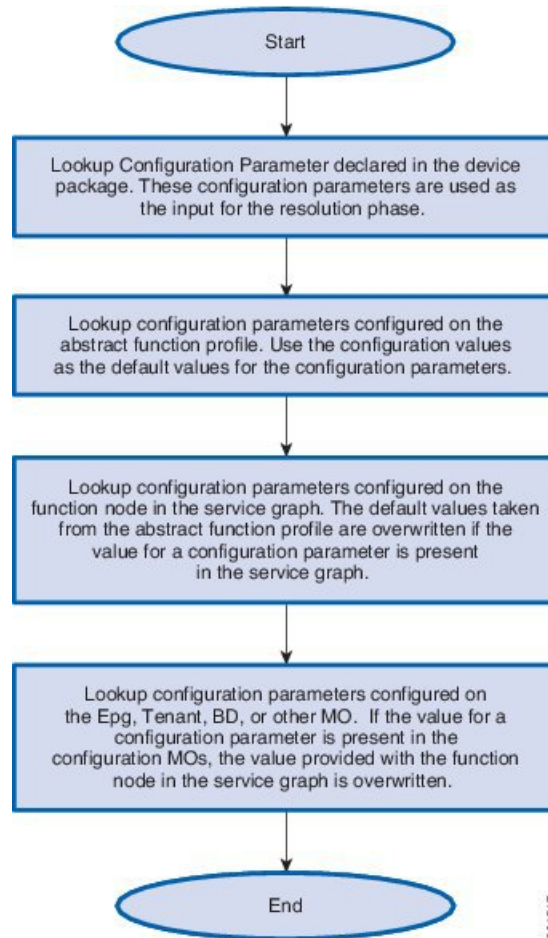
  <vnsCfgRelInst name="VipConfig" key="VipConfig" targetName="Network/vip"/>
</vnsFolderInst>
</vnsFolderInst>
</fvAEPg>
```

パラメータ解決

グラフ インスタンス作成時に、Application Policy Infrastructure Controller (APIC) はサービスグラフの各機能に対してコンフィギュレーションパラメータを解決します。解決が完了すると、パラメータ値がデバイス スクリプトに渡されます。デバイス スクリプトはこれらのパラメータ値を使用してサービス アプライアンス上でサービスを設定します。

次のフロー チャートは、パラメータの解決手順について説明しています。

図 6: パラメータ解決



パラメータ解決時の MO の検索

Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、コンフィギュレーションパラメータを取得する適切なコンフィギュレーション MO の検出に 2 つの主なコンストラクトを使用します。

RsScopeToTerm

機能ノードまたは AbsFolder に対する RsScopeToTerm 関係は、グラフに対するパラメータを持つコンフィギュレーション MO と接続されるサービス グラフの端末ノードを示します。APIC は、グラフ コンフィギュレーションパラメータを検出するために、RsScopeToTerm 内の指定の端末ノードと接続されたコンフィギュレーション MO を使用します。

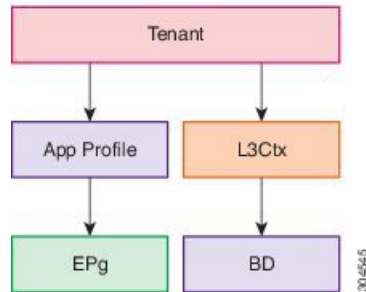
指定された RsScopeToTerm コンフィギュレーションがない場合、APIC はデフォルトでプロバイダー EPG に接続された端末を使用します。

ScopedBy 属性

ScopedBy 属性はパラメータの解決に使用する開始 MO の検出に使用されます。たとえば、scopedBy に「EPG」の値がある場合、APIC はエンドポイント グループからパラメータ解決を開始します。APIC は、階層を上ってパラメータを解決し、アプリケーションプロファイルの次にテナントに上ってコンフィギュレーションパラメータを解決します。

次の図は、APIC MO の階層を示しています。

図 7: APIC MO の階層



ロールベースのアクセスコントロールルールの拡張について

マルチテナント環境でのレイヤ 4～レイヤ 7 設定では、従来のロールベースのアクセスコントロール (RBAC) ドメインとロールモデルの定義を使用してテナント管理者が作成できない特定のオブジェクトを作成するには、管理者が介入する必要がありました。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) では、オブジェクトの作成に必要な権限をテナント管理者に付与できるように、管理情報ツリー (MIT) で RBAC 権限をより詳細に指定できます。また、テナント管理者は、管理者の介入なしに、セルフサービスを介して RBAC ルールを作成し、テナントサブツリーの下にあるリソースの権限をシステム内の他のテナントやユーザに付与することもできます。

ロールベースのアクセスコントロールルールのアーキテクチャ

ロールベースのアクセスコントロール (RBAC) ルールには、ロールベースのアクセスコントロール (RBAC) モデルを強化して加筆性ルールを許可するブール型の allowWrites フィールドがあります。allowWrites フィールドがない場合に定義できるのは、読み取り RBAC ルールのみになります。

RbacRule クラスは次のように定義します。

```

Class aaa:RbacRule (CONCRETE)
  Encrypted: false
  Exportable: true
  Persistent: true
  Configurable: true
  Write Access: [aaa, admin]
  Read Access: [aaa, admin]
  
```

RBACルールにより、ユーザはセキュリティドメインから特定のオブジェクトで始まるサブツリーを読み取ることができます。

DN FORMAT: [1] uni/rbacdb/rule-{{objectDn}}-dom-{{domain}}

表 1: *aaa:RbacRule* プロパティの概要

プロパティ	タイプ	クラス	説明
aaa:Boolean	scalar:Enum8	allowWrites (aaa:RbacRule:allowWrites)	読み取り/書き込みまたは読み取りルール。
naming:Name	string:Basic	domain (aaa:RbacRule:domain)	カレントオブジェクトのドメイン。aaa:ARbacRule:domainを無効にします。
reference:BinRef		objectDn (aaa:RbacRule:objectDn)	aaa:ARbacRule:objectDnを無効にします。

PartialRbacRule クラスは fvTenant クラスの下に定義され、テナントが RBAC ルール（セルフサービス）を作成できるようにします。PartialRbacRule クラスは次のように定義されます。

```
Class aaa:PartialRbacRule (CONCRETE)
  Encrypted: false
  Exportable: true
  Persistent: true
  Configurable: true
  Write Access: [aaa, admin]
  Read Access: [aaa, admin]
```

表 2: *aaa:PartialRbacRule* プロパティの概要

プロパティ	タイプ	クラス	説明
aaa:Boolean	scalar:Enum8	allowWrites (aaa:PartialRbacRule:allowWrites)	読み取り/書き込みまたは読み取りルール。
naming:Name	string:Basic	domain (aaa:PartialRbacRule:domain)	カレントオブジェクトのドメイン。
reference:BinRef		monPolDn (aaa:PartialRbacRule:monPolDn)	この監視可能なオブジェクトにアタッチするモニタリングポリシー。
reference:BinRef		partialObjectDn (aaa:PartialRbacRule:partialObjectDn)	

テナントによる PartialRbacRule クラスの作成では、partialObjectDn の正当性を確認する必要があります。partialObjectDn がテナントサブツリーの下にあれば有効です。親テナントサブツリー外の識別名は許可されていません。

管理者は、システム内の識別名を指す `RbacRule` を作成できます。テナント管理者が作成できるのは、テナント管理者のテナントサブツリー内にある識別名を指す `PartialRbacRule` のみです。

ロールベース アクセス コントロール ルールのシステム フロー

レイヤ4～レイヤ7ポリシーの設定前、設定中、または設定後に、テナント管理者は、特定のファイアウォールとロードバランサデバイスへのアクセス権を自分のテナントユーザに付与する `PartialRbacRule` の作成を選択することができます。各リソースグループを表す `aaaDomain` を作成し、個々に割り当てることでアクセスが実現します。次にセットアップの例を示します。

テナント	Acme
ユーザ	acme-admin acme-firewall-1-admin acme-firewall-2-admin acme-loadbalancer-1-admin acme-loadbalancer-2-admin
ファイアウォール デバイス	Firewall1 Firewall2
ロードバランサ デバイス	LB1 LB2

テナント管理者ユーザの `acme-admin` は、デバイスの `Firewall1`、`Firewall2`、`LB1`、および `LB2` を作成したいと考えています。各デバイスに対する完全な書き込みアクセス許可をユーザごとに割り当てる必要があります。たとえば、ユーザ `acme-firewall-1-admin` にはデバイス `Firewall1` ポリシーへの書き込み権限のみが必要ですが、ユーザ `acme-loadbalancer-1-admin` にはデバイス `LB1` ポリシーへの書き込み権限のみが必要です。これを実現するには、`acme-admin` ユーザが、次のアクセス権を付与する 4 つの `PartialRbacRule` を作成する必要があります。

- `Firewall1` 識別名：ドメイン `acme-firewall1` による書き込みが可能
- `Firewall2` 識別名：ドメイン `acme-firewall2` による書き込みが可能
- `LB1` 識別名：ドメイン `acme-lb1` による書き込みが可能
- `LB2` 識別名：ドメイン `acme-lb2` による書き込みが可能

ユーザには次の権限が割り当てられます。

- ユーザ：`acme-firewall-1-admin`
 - ドメイン `acme`：`read-all` 権限
 - ドメイン `acme-firewall1`：テナント管理/書き込み

- ユーザ : acme-firewall-2-admin
 - ドメイン acme : read-all 権限
 - ドメイン acme-firewall2 : テナント管理/書き込み

- ユーザ : acme-lb-1-admin
 - ドメイン acme : read-all 権限
 - ドメイン acme-lb1 : テナント管理/書き込み

- ユーザ : acme-lb-2-admin
 - ドメイン acme : read-all 権限
 - ドメイン acme-lb2 : テナント管理/書き込み

上記4人のユーザのいずれも、ドメイン **acme** の権限によって、**acme** テナント サブツリーを読み取れますが、どのノードにも書き込めません。テナント **acme-lb2** のテナント管理/書き込みの権限によって、ユーザは **LB2** ポリシー サブツリーのみ書き込むことができます。